

## < 概要 >

高度成長期に大量に建設された橋梁のほとんどが 20 年後には供用開始 50 年を越え、これらの橋梁の更新や維持補修の費用増加が予測される。一方で、橋梁を含めた土木構造物に対する予算は年々減少していることから、現在供用されている橋梁を長期的に活用するために、定期的に維持管理を行うことや更新・維持管理費用の低減・平準化を図る必要がある。我が国でも、橋梁維持管理に関して、すでに橋梁を含めた社会資本の老朽化を経験した欧米にならい、アセットマネジメント（以下 AM と名称する）の考え方が導入され始めている。しかしその実用化にあたっては、健全度評価に用いる各部材の重み付け、損傷劣化予測手法など、解決すべき問題が多々残されている。

## < 特徴 >

特徴 複数橋梁管理における橋梁の現在状態評価を定量的評価を行うための手法について研究しており、定量評価を採用することで、橋梁の状態を一般的にわかりやすく比較することができると思う。

## < 展望 >

諸外国や自治体などの橋梁維持管理の事例をもとに、これからどのような橋梁管理をしていくべきかを考える。

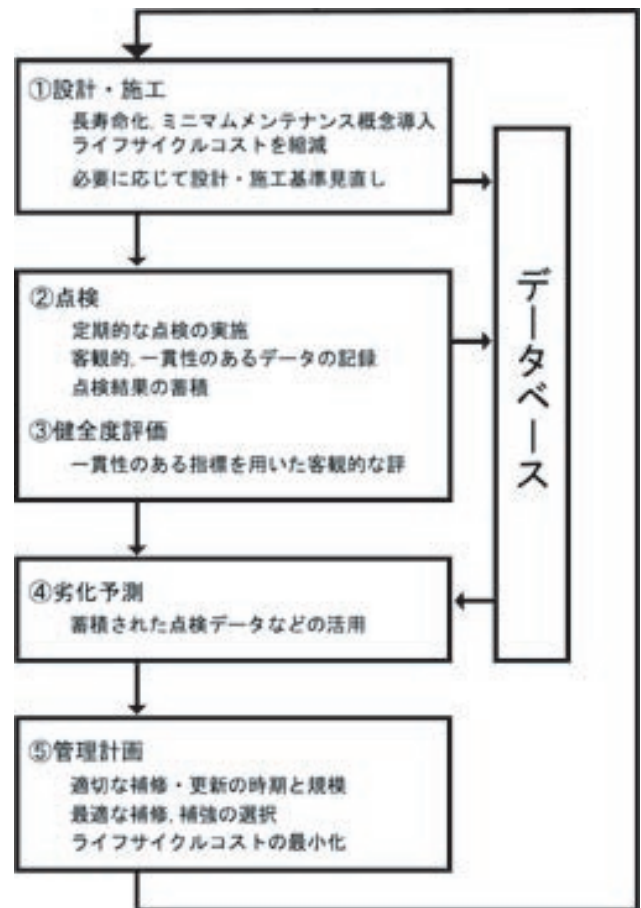


図 維持管理のフロー  
出典：財団法人 海洋架橋・橋梁調査会

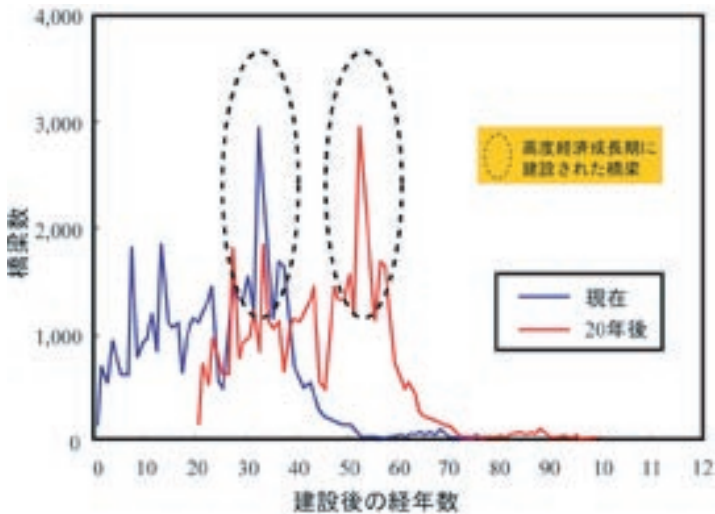


図 橋梁数とその経年数の関係  
出典：第 8 回基本政策部会（国土交通省）



図 橋梁点検状況